

平成28年度和裁士技能検定（2級）学科試験問題

実施日：平成29年3月12日
所用時間：60分

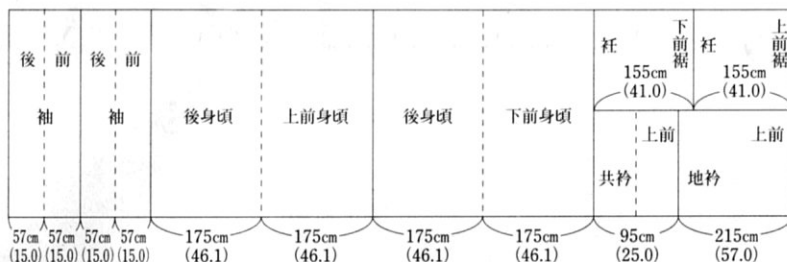
(1) 次の5問について、各部分を寸法に応じ配分し、その名称をよくわかるように記入して裁断図を書きなさい。(裁ち切りは実線、折り山等は点線で記入)

(配点各問6点)

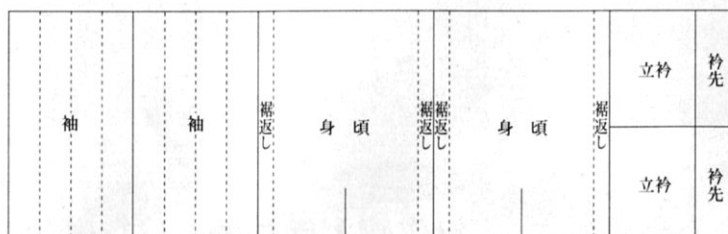
①並幅物12.4m (3丈2尺6寸5分) の反物で本裁女物長着を下記指定寸法で追い裁ちにしたい。裁断図および各部の寸法と名称を記入しなさい。

身丈背よりでき上り165cm (4尺3寸5分)・袖丈でき上り53cm (1尺4寸)
繰越3cm (8分)・裷下 (衿下) でき上り81.5cm (2尺1寸5分)・他は標準寸法とする。

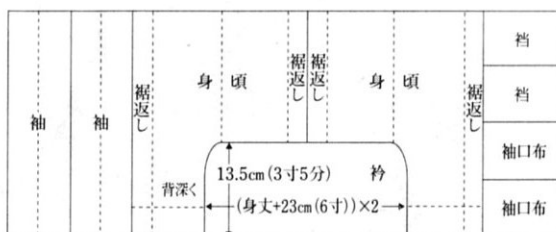
(注) 袖の前後、上前身頃、上前衿、上前共衿、上前衿裾などの位置を明記すること。



②並幅物12m (3丈1尺7寸) で本裁女物長襦袢を作りたい。その裁断図を記入しなさい。



③並幅物6m (1丈5尺9寸) で女物羽織を作りたい。裁断図を記入しなさい。ただし、衿寸法は62.5cm (1尺6寸5分) とする。



④並幅物11.8m (3丈1尺2寸) で留袖用比翼を作りたい。裁断図を記入しなさい。ただし、袖は口、振りとし、衿裏共布とする。



⑤並幅物12m (3丈1尺7寸) の表地で二部式雨コートを作りたい。裁断図を記入しなさい。



(2) 次の各問の文章が正しい場合には○印、誤っている場合には×印を所定の位置に付けなさい。

(配点各問2点)

- (×) 1. 色の三原色とは、色相、明度、彩度である。
- (○) 2. レーヨンには虫に害されるが、ナイロンは虫に害されない。
- (○) 3. 草木染めとは、植物の花・草・樹皮などの染料で染色したものである。
- (×) 4. 絞り柄には多くの種類があるが、鹿の子絞りとは正田絞りはまったく同じものである。
- (×) 5. 一越ちりめんの織り方は朱子織りである。
- (○) 6. 経糸、緯糸が交錯することが少なく、長く連続して布面に浮いて光沢のある織物を朱子織と言う。
- (×) 7. 有松絞り、博多絞りは主として絹布に絞られる。
- (×) 8. 横段柄を肥満体の人に仕立てる場合は、柄を並べたほうがよい。
- (○) 9. 柄裁ちをする場合、長着は上前の前身頃および胸にポイントを置き、羽織は後身頃にポイントを置く。
- (○) 10. 裁ち切り衿肩明寸法＝(首回り)×1/4＋(背縫い代)である。
- (×) 11. 経帷子(きょうかたびら)は僧侶が読経のときに袈裟の下に着る白衣である。
- (×) 12. 長襦袢の後身幅、前身幅は、きもの下に着るので、きものそれより狭くするのがよい。
- (○) 13. 横段柄を肥満体の人に仕立てる場合は、柄を並べないほうがよい。
- (○) 14. 男物着丈の標準寸法は、身長より25～27cm短くする。
- (×) 15. 男物羽織の抱き紋の位置は、反物の巾の中央にある。
- (○) 16. 都衿コートの小衿丈は普通、80～95cm (2尺1寸～2尺5寸) 位の丈を取っておく。
- (×) 17. 千代田衿のコートの小衿丈は、並巾で85cmあればよい。
- (○) 18. 袋帯や名古屋帯を締めるとき、胴(手)は「わ」を下にして締める。
- (×) 19. 帯もきものと同様に、正式礼装用として格式が高いのは、織りの帯よりも染めの帯である。
- (×) 20. 男子礼装は黒羽二重紋付き長着二枚重ねに袴を付け、羽織も黒羽二重の染め抜き五つ紋に黒紐を付ける。
- (○) 21. 男物長着の内揚げ位置は後より前を低くするのが普通であり、その位置は帯の下に隠れるような高さがよく、普通、肩より測って着丈の4/10位下がった位置が適当である。
- (×) 22. 男児五歳の祝着の袖は振りを付けて、丸味を付ける。
- (×) 23. 和裁で使用されている手縫針で、4の3とか4の2という呼び方は、JISで規定された名称である。
- (○) 24. アイロン、コテなどで火傷した場合、応急処置としては、水で局部を冷やすのが普通である。
- (○) 25. 被布は室内着として用いるが、被布衿コートは室内で脱ぐのが礼儀である。
- (○) 26. 糸を精練して織るものを練り織物と言い、糸を染めて織るものは先染め物であり、両者とも先練り物と呼ばれている。
- (×) 27. 一般に付け紐を衿に付ける場合、男児のものは縫い目を上にし、女児用のものは縫い目を下にして付ける。
- (×) 28. 袴の紐つぎ合わせなどに用いられる補綴の方法は、織り込みつぎである。
- (○) 29. 裁ち板には、柳、朴、桂、銀杏などのよく枯れたものが適している。
- (×) 30. 江戸小紋は、徳川中期に名付けられた名称である。
- (×) 31. 被布衿コートは、裾を付けて仕立てるのが普通である。
- (○) 32. 二部式雨コートの下着丈は、腰骨の上8cmから裾はくるぶしが隠れるくらいが適当である。
- (×) 33. 現在着用されている女袴の起源は、江戸時代末期である。
- (×) 34. 女物無地一つ紋の長着は、絵付絵羽織を着なければ略礼装にはならない。
- (×) 35. 打掛はかいどりとも言い、その模様は飛柄総模様である。